

演題 57

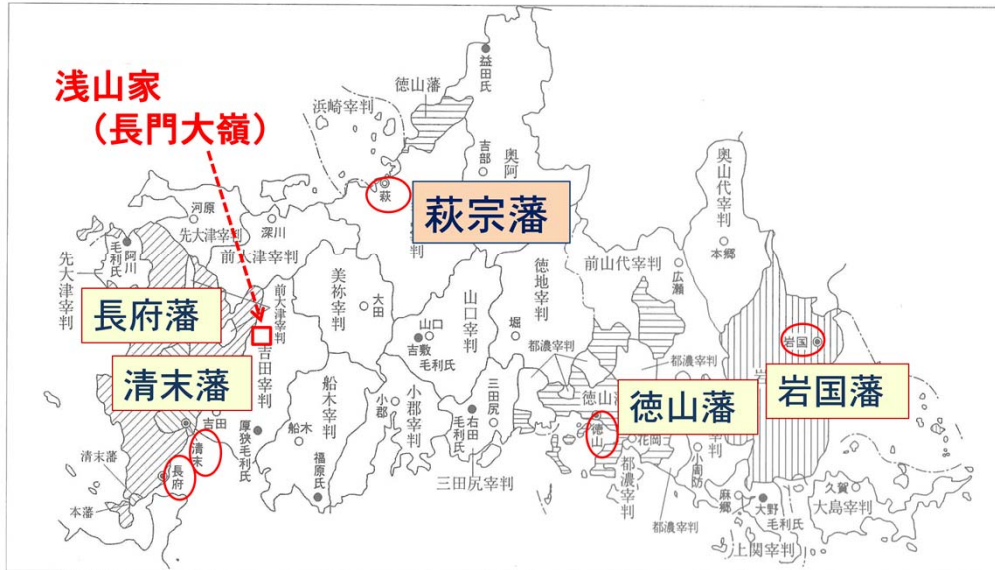
山口県美祢の  
医師 浅山良輔と  
赤間関医学校

○中澤 淳<sup>1</sup>， 亀田 一邦<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>山口大学， <sup>2</sup>九州国際大学)

(第116回日本医史学会: 2015.4.26.)

第116回日本医史学会 学術大会発表  
(演題57)「山口県美祢の医師 浅山良輔と赤間関医学校」  
平成27(2015)年4月26日(日)  
於 日本綿業倶楽部 (大阪市)

## 萩宗藩および四支藩

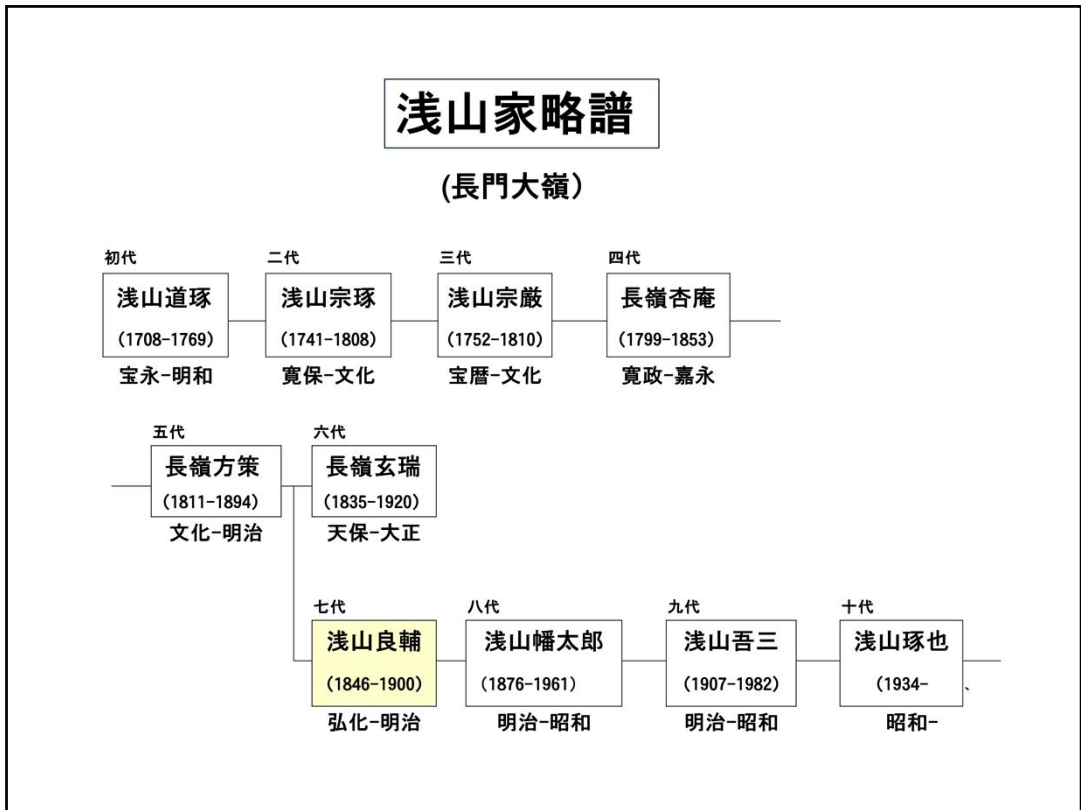


石川辰美「防長歴史用語辞典」より

山口大学が所蔵する浅山文庫の書籍は、浅山良輔が使用していましたが、幕末から明治初期にかけてのこの医師の活動についてお話しします。

幕末の時点で長州藩には、萩宗藩に加えて長府藩、清末藩、徳山藩、岩国藩と4つの支藩がありました。

萩宗藩は18の宰判という行政区に分けられていて、浅山家はそのうちの吉田宰判長門大嶺にありました。



浅山家は18世紀ころから医業をはじめていまして、長府藩とのつながりも深く、途中で長嶺姓を名乗ることもありましたが、医家が続き当代は宇部市で眼科を開業しておられます。

## 赤間関街道 中道筋 四郎ヶ原宿



萩と下関の間を結ぶのは赤間関街道中道筋ですが、これは全長約80kmあり、その中間のところに四郎ヶ原宿があります。左側の家の前には記念碑があり吉田松陰が長崎遊学の時ここに泊ったと書いてあります。

## 長門美祢 四郎ヶ原 浅山家



浅山家はこの街道に面していて、門を入ると大正時代に建築した診療棟があり、その奥に母屋と内蔵があります。  
今は浅山家が別荘にしておられます。

## 浅山良輔(1845-1900)



(浅山家蔵)

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 元治元年<br>(1864)  | 青木研蔵につき内科修業<br>(萩)  |
| 慶応2年<br>(1866)  | 兵隊病院で外科修学<br>(山口藩)  |
| 明治5年<br>(1872)  | 赤間関医学所入校            |
| 明治6年<br>(1873)  | 赤間関医学所助読            |
| 明治8年<br>(1875)  | 医術考試受験<br>(三田尻公立病院) |
| 明治9年<br>(1876)  | 内外科 開業<br>(美祢郡大嶺村)  |
| 明治11年<br>(1878) | 山口県開業医証書受領          |

浅山良輔は浅山家の7代目で、弘化2年1845年の生まれです。元治(げんじ)元年から萩の青木研蔵のもとで修業、山口藩兵隊病院を経て、明治5年に赤間関医学所に入校、翌年にはその助読となり、明治8年に山口県の医術考試を受験し、翌9年に開業、明治11年に山口県開業医証書を受領しています。地域医療に尽力した後、明治33年1900年に55歳で亡くなっています。

## 赤間関医学校(所) 設立計画書

醫學校病院設立之文書  
第一番  
医員ヲ取調ヘ年歳漢洋ノ別門生教ラシメ直度事  
若ハ若日申上候由リ医業規則ヲ立ツル代ニ是非其教ラ知  
ラサレテ得入年終ラ同ラハ學業緩急ヲ為シ自  
ラ漢洋別申上候上ハ漢家ハ今ヨリ後門生ヲ養フラ  
禁止シ門生ノ教ラ訓ニハ當官醫學生徒我人ヲ知  
リ醫學校ノ請入費書籍買入ノ負教反シ共金高ラ  
計ルテ得依テ前文事件御布告有之度事  
第二番

「下関市医師会沿革史」より

赤間関、今の下関は、幕末に外国艦隊や幕府軍との戦争の舞台になり、軍事病院が作られていました。

そこで活躍した人たちが明治になってここに医学校を作ろうということになったようです。

廃藩置県の後、山口県は医療行政を統合し、政府に先駆けて医学をドイツ式とし、独自の医術試験を計画しました。

この文書はそれを受ける形で、地域の医師と学生の調査や、このあとに続く部分で、教科書の購入、貸出の規則、医学校の設置費用などの構想を書き記したものと思われます。

## 赤間関医学所



後列中央石井信一:前列右浅山良輔  
「下関市医師会沿革史」より

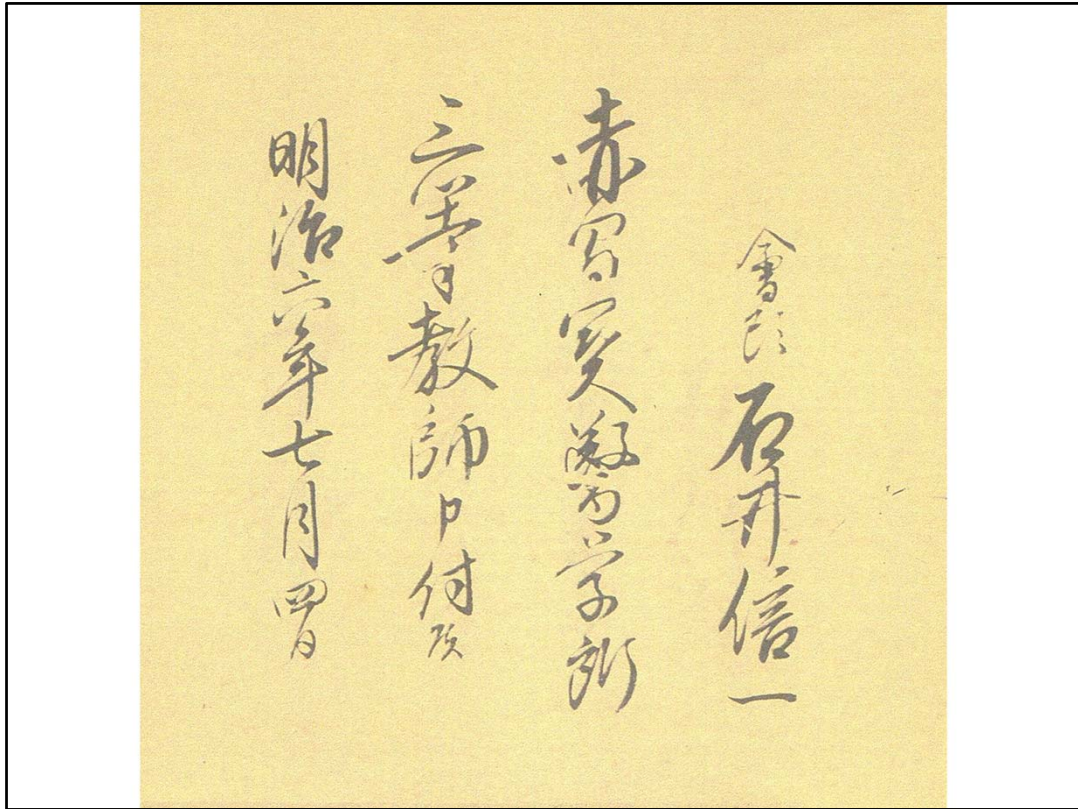
明治5(1872)年  
校長 松本濤庵

山口県 開業医試験

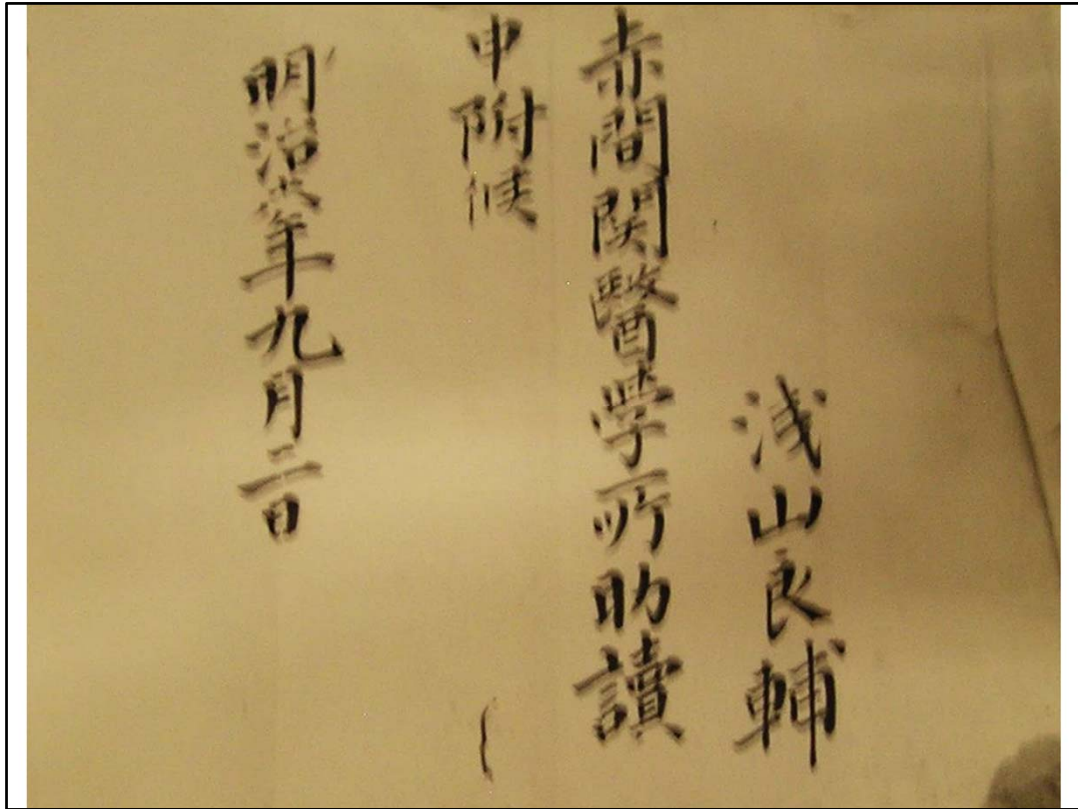
明治6(1873)年  
校長 石井信一

明治9(1876)年  
山口県 廃止決定  
三田尻華浦医学校へ  
生徒移行

赤間関医学所は明治3年から存在していたようですが、明治5年に長府藩医の権威松本濤庵を校長に迎えて充実を図りました。同じ年に山口県は開業医試験を開始しましたが、この試験に合格した石井信一が翌年校長を引き継いでおります。ところが、明治9年になって山口県はこの学校を廃止し、三田尻、現在の防府市にあった華浦医学校へ生徒を移行させました。この写真で、後列中央が石井信一、前列右が浅山良輔です。



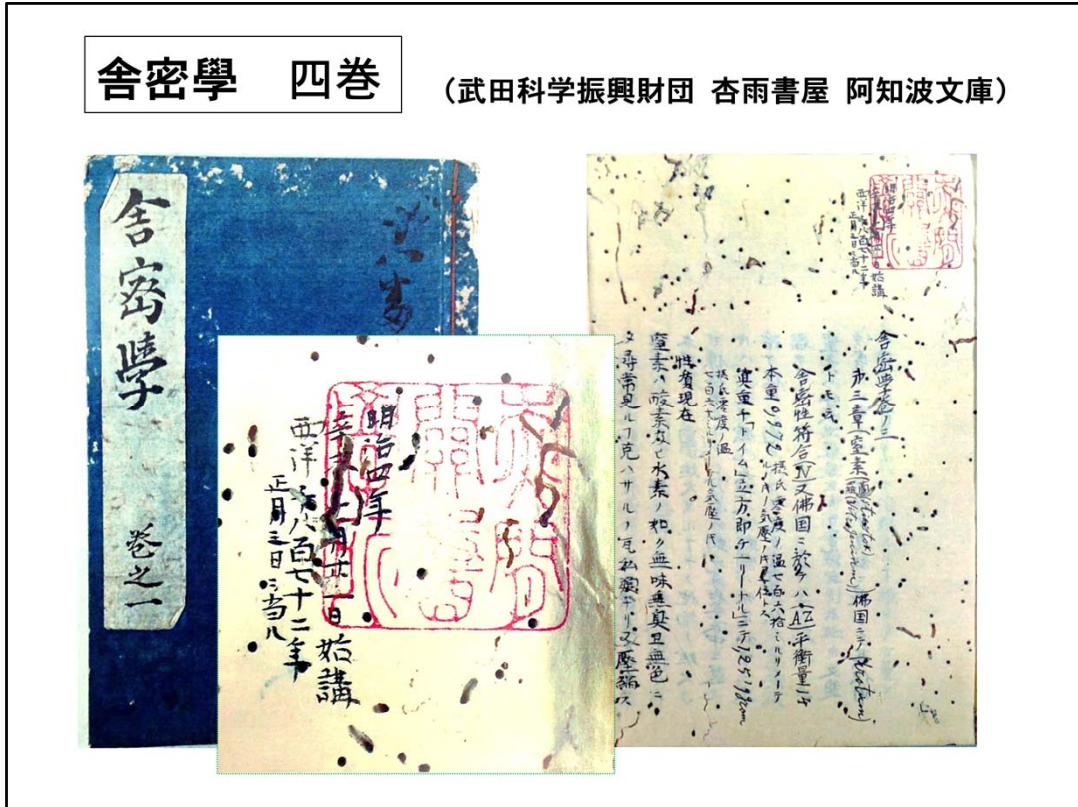
これは赤間関医学所の校長石井信一の任命書です。  
三等教師というのは俸給の基準と思います。



これは浅山良輔の辞令です。  
助読というのは助手のことと思います。

# 舎密學 四卷

(武田科学振興財団 杏雨書屋 阿知波文庫)



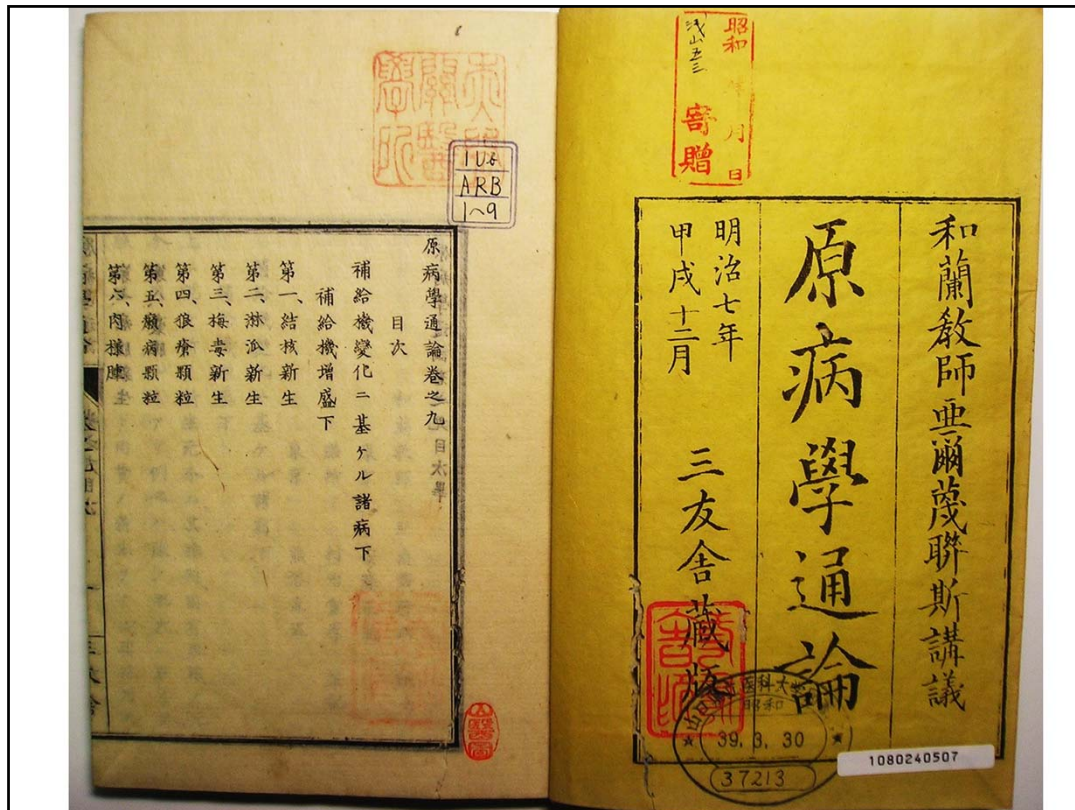
昨年、杏雨書屋の阿知波文庫の中に赤間関医学所の教科書として使われていたらしい「舎密学 4巻」を見つけました。ここに蔵印があります。

阿知波五郎先生は華浦医学校の多数の教科書を手元に置いて、詳しい論文を発表されました。

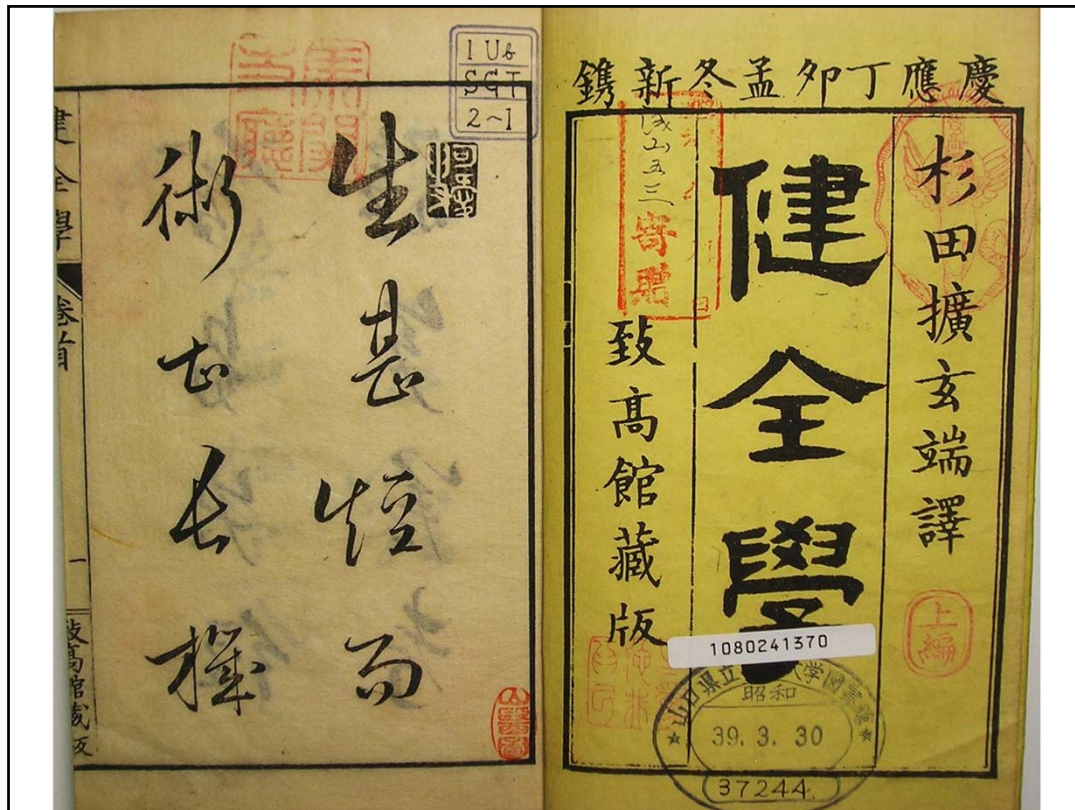
これをみますと、赤間関医学所から華浦医学校へは、生徒のみならず教科書類も引き継がれていったのではないかと思います。

興味深いことには、この頭のところに「明治4年辛未(しんび)11月21日始講・西洋1872年正月3日に当ル」との書き込みがあります。

この時点に赤間関医学所が存在して、授業が行われていたことを示す新たな証拠ではないかと思います。

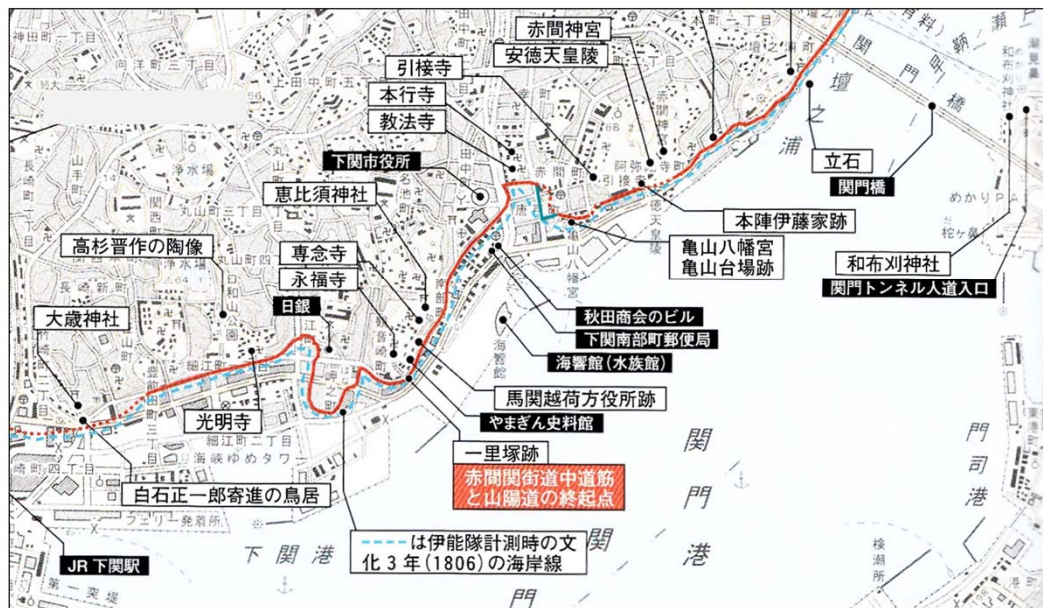


これは浅山良輔の蔵書の中にある、エルメレンスの「原病学通論」の見開きですが、先程と同一の角印があり、赤間関医学所の教科書と思われる。



これは浅山蔵書の中の教科書「健全学」ですが、ここには「馬関支庁」の角印があります。  
 廃藩置県により明治4年11月に山口県が成立しましたが、このとき、県庁は山口に置き、支庁を下関、萩、岩国に置きました。  
 下関のものは、はじめ馬関支庁のちに赤間関支庁となりました。  
 赤間関医学所が山口県の管理下におかれていたことを示すものと思います。

## 下 関（赤間関・馬関）

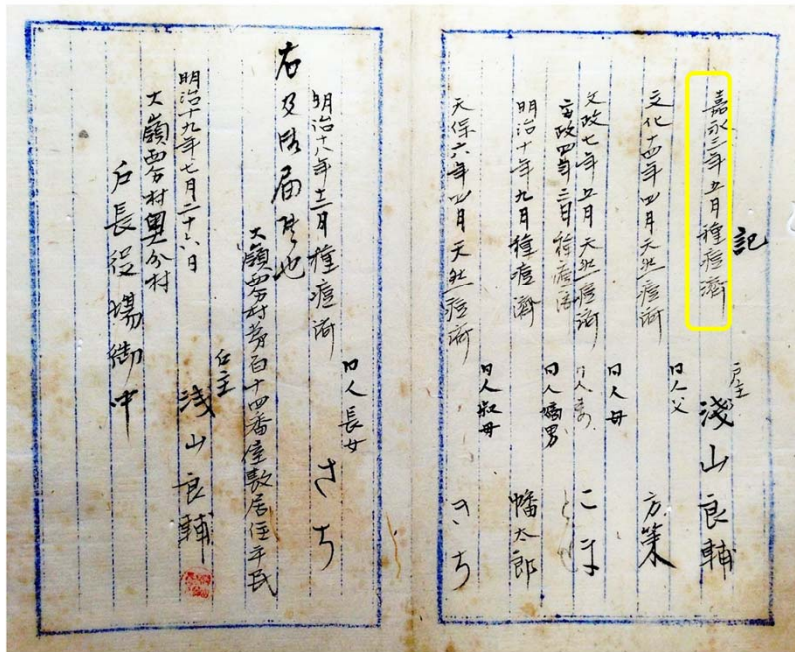


「長州維新の道 赤間関街道 中道筋 遠藤薫編、2010」より

これは下関市の地図ですが、青い点線が伊能忠敬の測量した時の海岸線で、赤い線は街道の道筋です。現在では埋め立て地が広がっていることがわかります。

中央のややへこんだところが唐戸で、赤間関医学所は明治5年ごろは、この近くの寺院に仮設されていて、やがて現在下関市役所がある場所に設置されたといわれています。

## 浅山家の種痘記録



次に開業した浅山良輔の医療活動のなかで、種痘に焦点を当ててお話します。  
 ここに明治19年に役所へ出した浅山家の種痘記録があります。  
 これをみると、浅山良輔は嘉永3年5月に種痘済みとなっています。

## 長州藩における牛痘種痘の導入

嘉永2(1848)年

- 6月 榑林宗建 種痘成功(モーニッケ種苗)
- 8月25日 青木研蔵を佐賀、長崎へ派遣
- 10月 9日 医学所濟生堂内で接種開始
- 11月11日 各宰判から医師2、3人を選び実技指導

嘉永3(1849)年

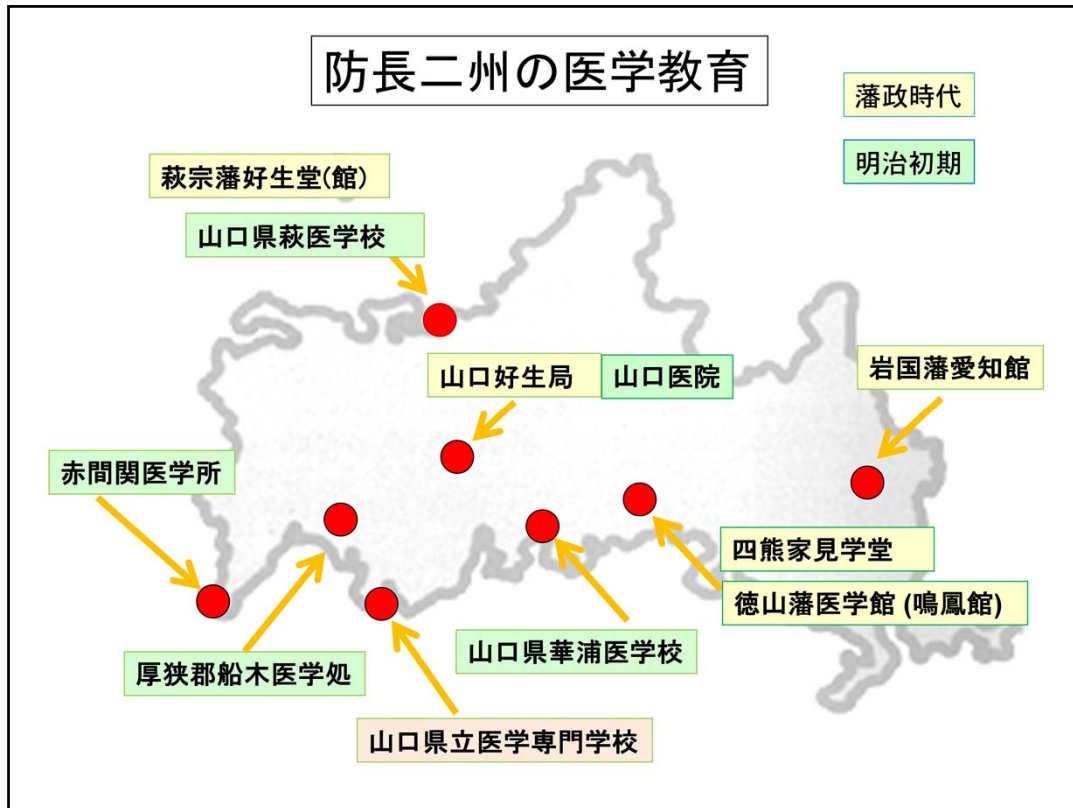
- 2月15日 藩内で種痘開始  
種痘医109名 (地下医40名)

長州藩は、牛痘種痘を早くから実施したことで知られています。  
嘉永2(1849)年、榑林宗健の牛痘接種成功の報を受けると、直ちに青木研蔵を佐賀、長崎へ派遣して種苗を持ち帰らせます。  
萩の医学所濟生堂において、藩内各地から医師を集めて実技指導をした上で、嘉永3年2月から109名の種痘医を使って藩内全域で種痘を進めます。  
浅山良輔はその時に種痘を受けていたわけです。

## 種痘施術明細表（明治18年）

美禰郡大嶺西夙村種痘施術明細表											
第七種痘局自宅											
筆記 浅山良輔 中原立齋											
右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
四	再	四	五	左	右	左	右	左	右	左	右
八	七	同	七	白	白	八	八	八	八	八	八
指	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指
藏	江	同	吉	長	庄	總	逸	清	福	身	身
長	藏	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
一	丁	青	青	福	石	石	石	石	石	石	石
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五

浅山家に残されている明治18年の種痘記録です。  
 自宅を種痘局として実施し、左右上膊部の接種数、初種・再種の別、施術月日、年齢、氏名などに加えて、種痘料も記入し、証書を授与しています。  
 これらの記録をもとにして、1月と7月に半期ずつ結果をまとめて医務取り締まり当局に報告することになっていたようです。  
 この年の記録ではありませんが、明治16年後半期には427人に接種したとのこと。



最後に山口県の医学教育機関をまとめました。  
 藩政時代、萩、山口、岩国、徳山藩の医学校、私塾四熊見学堂から、明治になって、山口と赤間関の医学校、厚狭地区の船木医学所、三田尻の華浦医学校、萩医学校などがありました。いずれも短命に終わり、本格的医学教育機関は、昭和19年宇部市に開設された山口県立医学専門学校を待たねばならませんでした。

以上